

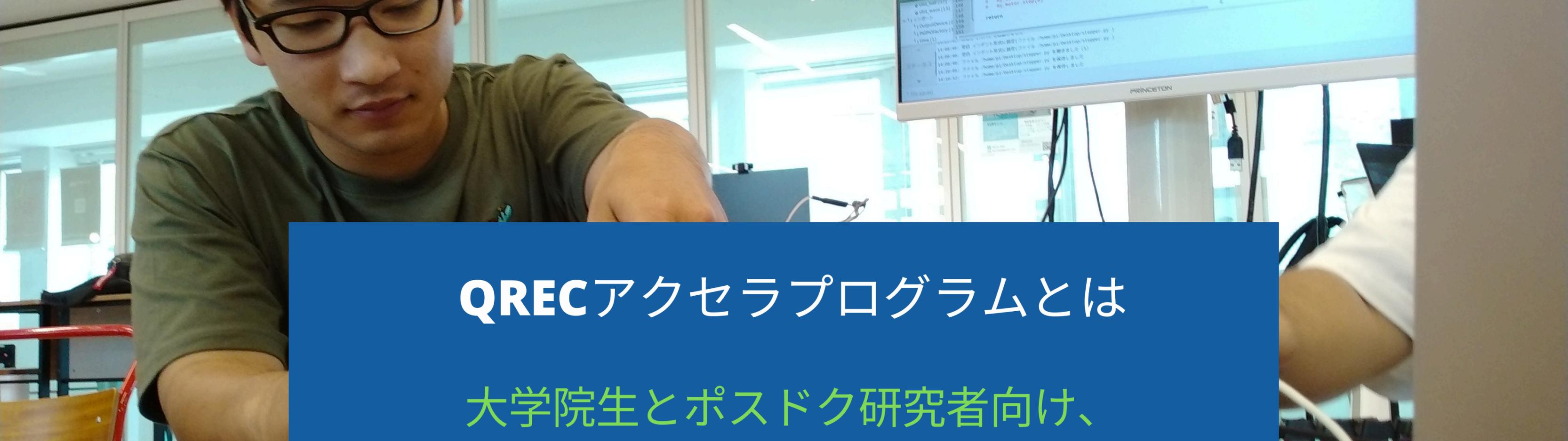


説明資料
2024年6月

QREC

アクセラレーション プログラム **2024夏**

九州大学
ロバート・ファン/
アントレプレナーシップ・センター
アクセラレーションマネージャー
渡邊 由佳

A man with glasses is sitting at a desk in a laboratory or office, looking at a computer monitor. The monitor displays some code or data. The background shows a window and some equipment.

QREC アクセラプログラムとは

大学院生とポスドク研究者向け、
技術アイデアを社会実装するための
夏季集中仮説検証プログラム

採択チームが得られる 6つのサポート

1. 技術商業化を包括的に
学べる対面セッション

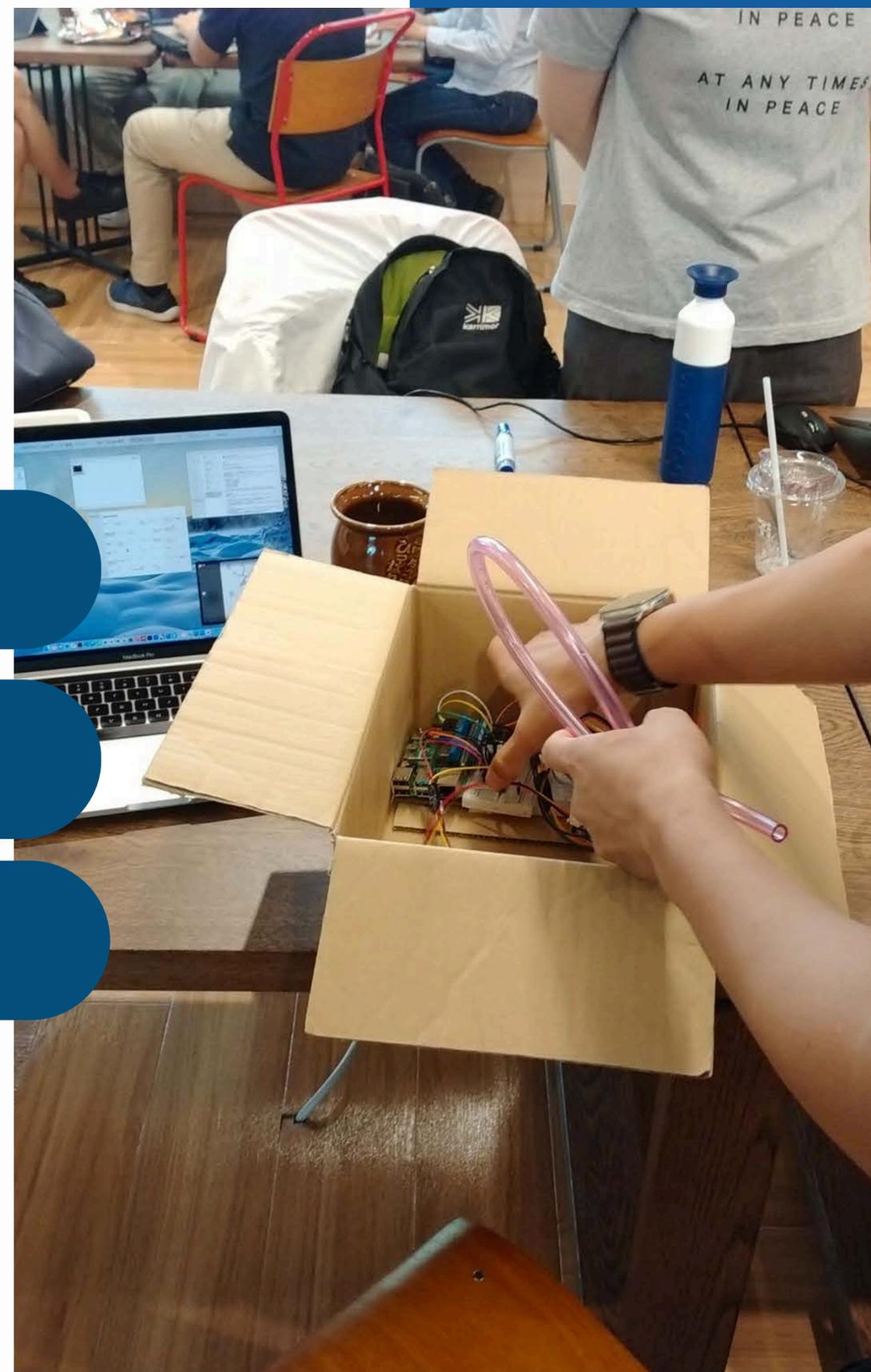
3. 専門家による
スポット支援

5. 工房と24時間使える
コミュニティスペース

2. 経験豊富なメンター
による伴走支援

4. 活動助成金
最大30万円

6. GAPファンドやNEP、
未踏等への接続支援



技術商業化を包括的に 学べる対面セッション

① 8/10 (土) 13-17時 キックオフ・仮説を深掘りする

課題と解決策、競争優位性の仮説の解像度を上げる。MVP（最小限の提供価値を含んだプロトタイプ）について学ぶ

③ 8/24 (土) 13-16時 チームを強化する・ピッチに備える

仲間集めやチームマネジメント、ピッチの技法について学ぶ

⑤ 9/14 (土) 13-16時 顧客の視点からビジネス化を考える

顧客視点で仮説を再考し、ビジネスモデルを考える

⑦ 9/28 (土) 13-16時 最終審査

ピッチを行い、審査員からのフィードバックを得る

② 8/17 (土) 13-16時 仮説検証をする

MVPと潜在顧客ヒアリングをつかった、技術の社会実装の仮説検証方法について学ぶ

④ 8/31 (土) 13-15時 中間審査

ピッチを行い、審査員からのフィードバックを得る

⑥ 9/23 (月祝) 13-16時 リソースを獲得する

次のステップへ進むための資金等のリソースの獲得方法と支援制度について学ぶ

⑧ 10/5 (土) 13-15時 フォローアップセッション (オンライン)

プログラム後の適切な支援に向けて、プロジェクトの今後についてチームの意向を確認する

※上記内容は、一部変更になる場合がありますのでご了承ください。

2. 経験豊富なメンター による伴走支援

経験豊富なメンターが、
2か月間チームに伴走し、
定期的なメンタリングを提供

- プロジェクト内容に合わせてメンターをマッチング
- プログラム初日に顔合わせ
- 毎週一回1時間オンラインでの定期メンタリングを提供



3.

専門家による
スポット支援

オン・コール・アドバイザー制度
6つの分野の専門家によるスポット支援

⑥ **FUNDING** (資金調達)

① **CUSTOMER** (顧客)

⑤ **TEAM** (チーム)

6分野総勢15人の
専門家による
サポート

② **TECHNOLOGY** (技術)

④ **IPR** (知的財産)

③ **BUSINESS** (ビジネス)

4.

活動助成金 最大30万円

昨年実施のパイロットプログラムでの使用例

ラズベリーパイや
マイクロビット本体

コンデンサやセンサ等
の電子部品

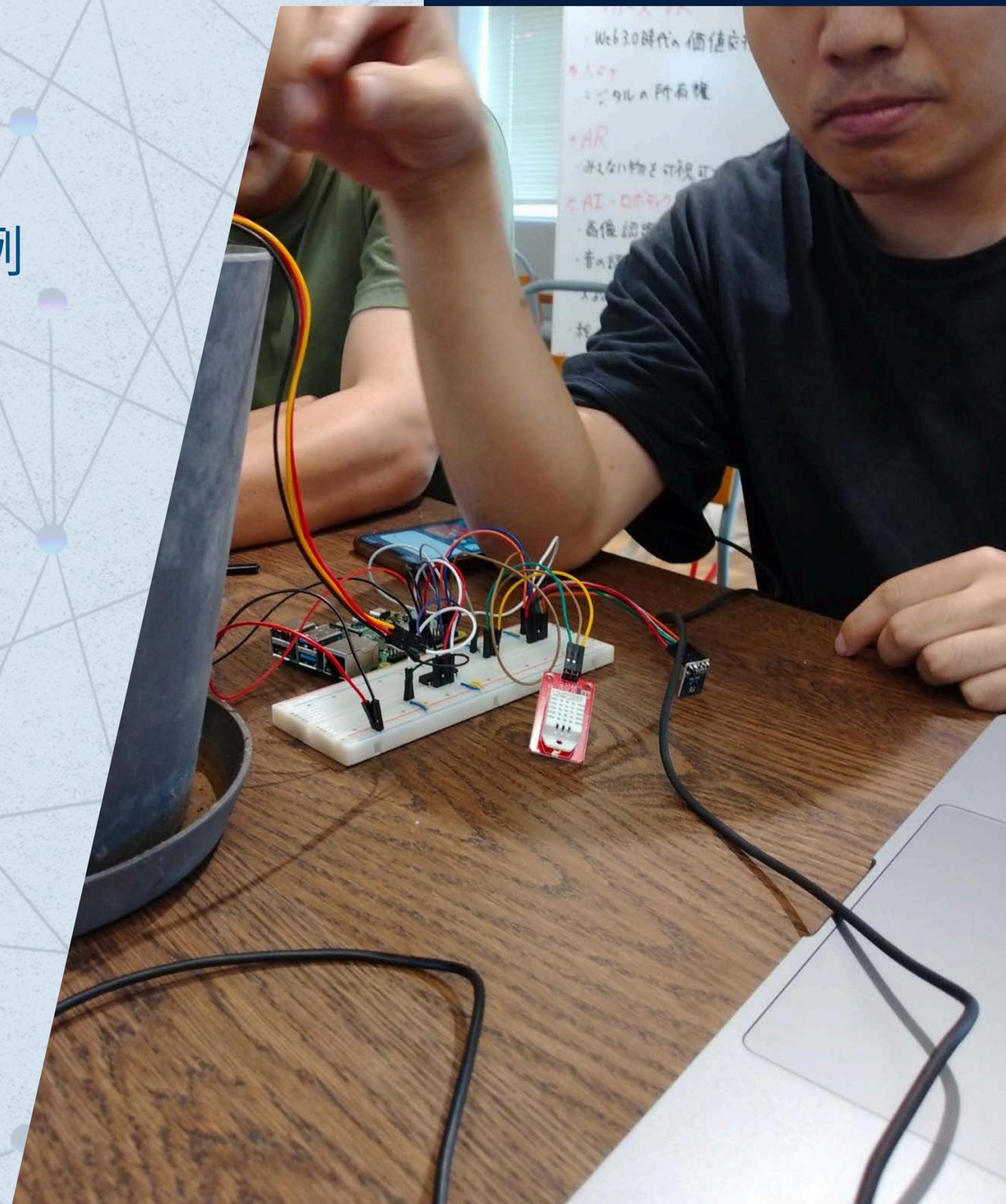
塩ビパイプ、防水テープ、
チューブなどの部品

ソフトウェア

潜在顧客ヒアリング
の交通費

参考図書、工具、その他

その他、必要な資材等の購入があればご相談ください。善処いたします。また、ナフコやカホパーツセンターなどその他ラボで付き合いのある業者等での公費払いも可能です。ご相談ください。



5. 工房と24時間使える コミュニティスペース

プロトタイプ作りに使える工房！
3Dプリンターやレーザー加工機、ラズベリーパイや、マイクロビットなどがあります。
平日の9時～17時半で使えます

打合せや作業などに
24時間いつでも使える
コミュニティスペース！



QREC施設利用

QREC工房

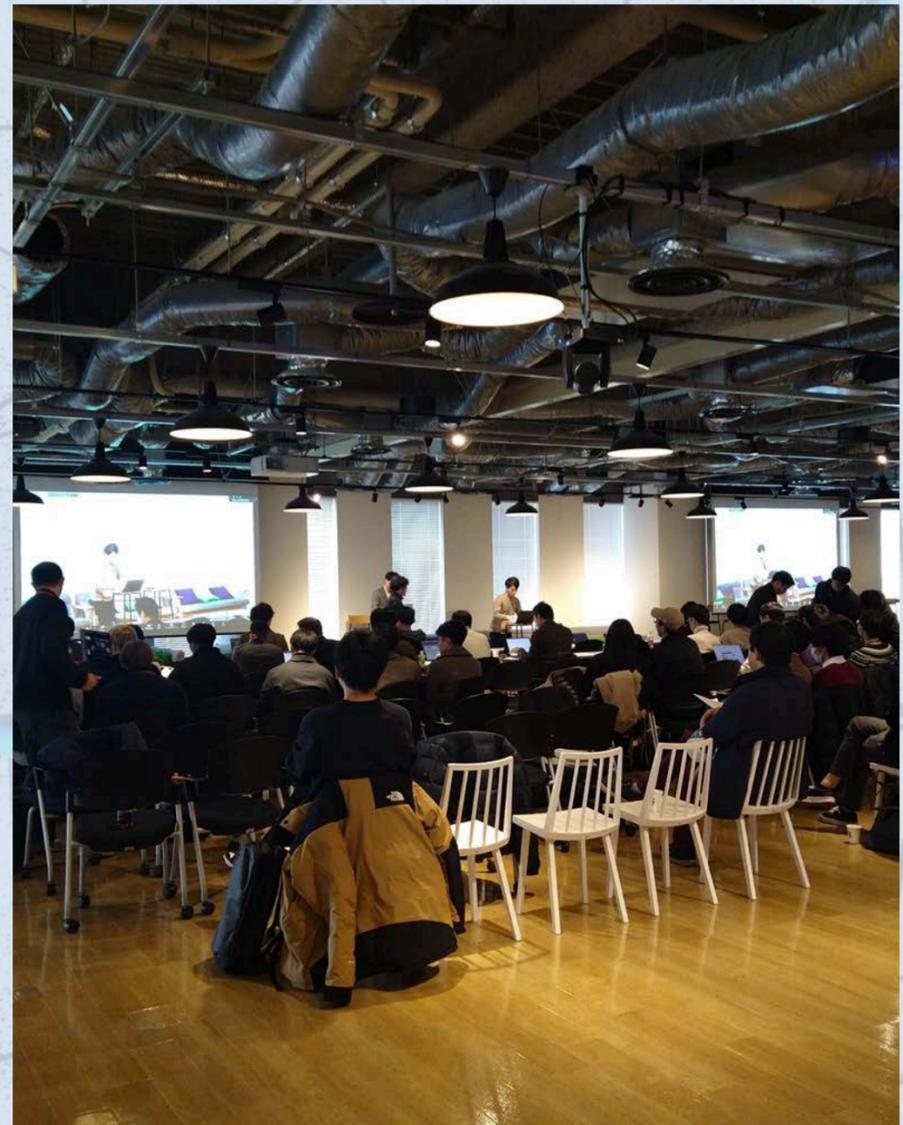
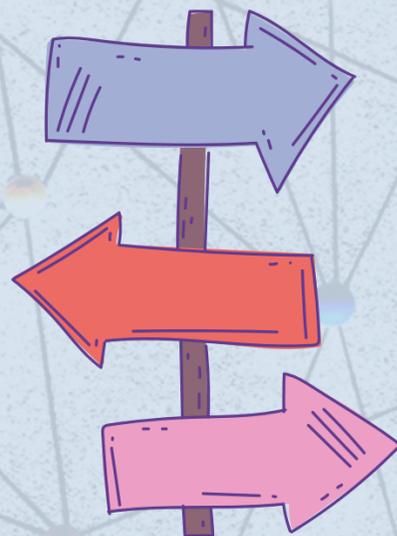
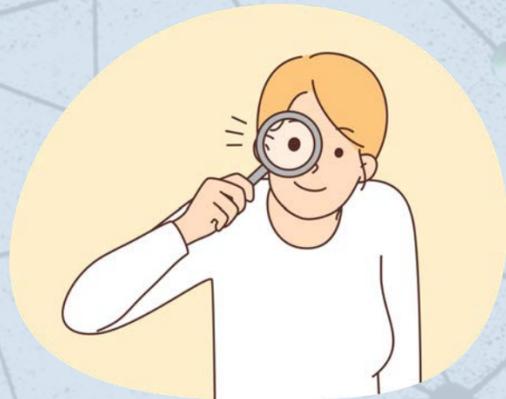


コミュニティスペースBasE



6. GAPファンドやNEP、未踏等への接続支援

最終発表後にフォローアップセッションを実施し、チームのプロジェクトに対する今後の意向を確認し、必要であれば次のステップへ進むサポートをします。



プログラム後も、プロジェクトを継続したい!

九州大学の**GAP**ファンド※1や、**NEDO**の**NEP**※2、**IPA**未踏※3や、福岡未踏※4など、公的資金やサポートや民間の資金やサポートへの接続をハンズオンでサポートします。



※1 大学が比較的少額の試作開発資金などを供与して、技術シーズと事業化の間に存在するGAPを埋めることで、大学発ベンチャー創出を促していく基金

※2 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が実施している「ディープテック分野での人材発掘・起業家育成事業／ディープテック分野での人材発掘・起業家育成事業」

※3 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）が実施する「未踏IT人材発掘・育成事業」

※4 経済産業省「AKATSUKIプロジェクト」採択事業「福岡未踏的人材発掘・育成コンソーシアム」

募集対象となるチーム

九州大学の大学院生、もしくはポスドク研究者をリーダーとした、
2名から5名前後で組成したチーム
(学部生もチームメンバーなら**OK**)

社会実装に挑戦したい技術ア
イディアを持っているチーム

コミットして、対面セッション
に参加できるチーム

募集開始から プログラム開始まで

01

募集期間

2024年6月3日（月）9：00
～7月1日（月）17：00

02

一次選考

書類選考

結果通知：7月8日（月）

03

二次選考

オンラインインタビュー（20分）

実施期間：7月10日（水）～17日（水）

結果通知：7月22日（月）

04

プログラム開始

8月10日（土）

審査基準

採択時審査

プログラム期間中に、社会実装のPoC(=概念実証：試作開発に入る前段階の検証)を獲得可能な課題と解決策の仮説を持っているか

コミットしてプログラムに参加できるか

中間審査

約20件の潜在顧客ヒアリングとMVPの修正により、課題と解決策の仮説検証を行っているか。

課題と解決策の策定が進捗しているか

最終審査

中間審査後、約30件の潜在顧客ヒアリングとMVPの修正により、課題と解決策の仮説検証を行っているか

社会実装のPoC獲得されているか

技術的に新規性があり、新しいことに挑戦しようとしているか
課題と解決策について審査員に上手く伝えられているか

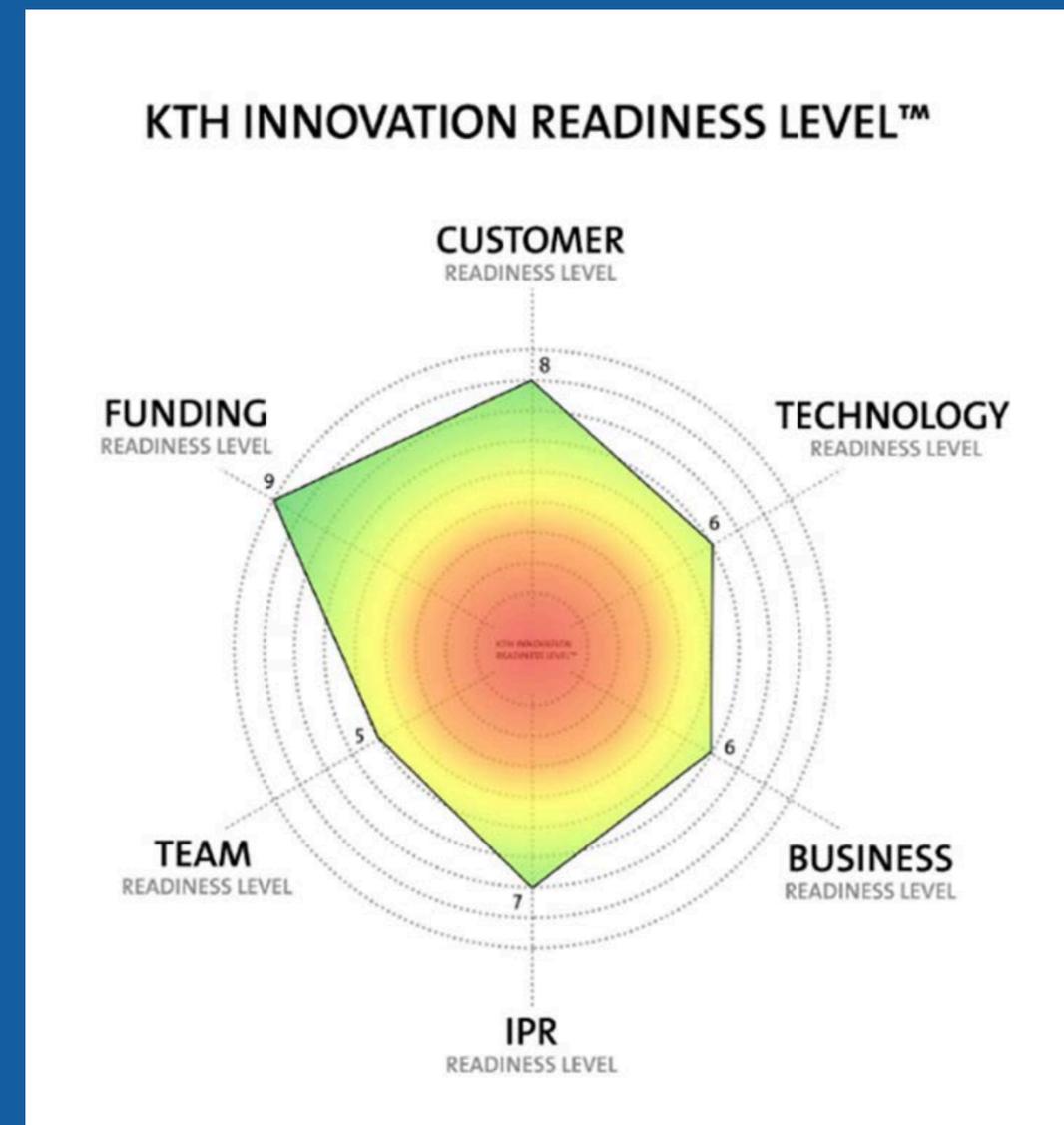
(参考) KTH-IRL

本プログラムの設計は、スウェーデン王立工科大学 (KTH) のイノベーション・レディネス・レベル (IRL) を参考にしています。

KTH-IRLは、大学発イノベーション商業化のためのフレームワークです。支援のエリアは「顧客」「技術」「ビジネス」「知財」「チーム」「資金調達」の6つに分かれています。

各エリアは1~9のレベルに分類されています。レベル9はシリーズA達成レベル、レベル5はインキュベーションを終了し法人を設立するレベル、レベル3はプレインキュベーション終了するレベルです。

本プログラムは、KTH-IRLレベル3への到達を8週間で支援するように設計されています。



"KTH INNOVATION READINESS LEVEL™." KTH INNOVATION READINESS LEVEL™, 16 MAY 2024, [KTHINNOVATIONREADINESSLEVEL.COM/](https://kthinnovationreadinesslevel.com/)

(参考) KTH-IRLレベル1から3まで

IRL	Customer	Technology	Business	IPR	Team	Funding
3	最初の市場フィードバックを確立する。	重要な機能および/または特許的分析および実験的概念実証をする。	キャンパスによるビジネスモデルの草案（収益/費用を除く）がある。競合他社の概要を把握する。	可能性のある重要な知的財産権を把握し、技術分野と既存の知的財産権の初期調査をする。	必要なコンピテンシー/リソースが一部チームに存在しており、定義されている。それらの獲得計画がある。	よく考えられた事業コンセプトと初期検証計画がある。最初の小口のソフト資金を確保する。
2	市場の具体的なニーズを特定する	技術コンセプトおよび/またはアプリケーションを策定する。	最初に想定される事業コンセプトの説明と（例NABC）市場全体といくつかの競合他社や製品を特定する。	保有する可能性のある様々な形態の知的財産権を特定し、それらを所有/管理している。	必要なコンピテンシーや外部リソース（パートナーなど）についての洞察と最初のアイデアがある。	事業コンセプトの説明（例NABC）と。初期のマイルストーンに対する資金調達計画を定義する。
1	市場でのニーズの仮説を立てる。	シーズ技術の基本原則が確認されている。	事業コンセプトの仮説を立てる。市場や競合に関する知識や洞察が少しある。	保有する可能性のある知的財産権（特許、ソフトウェア、著作権、意匠、企業秘密など）の仮説がある。	必要なチームに対する洞察が少しだけある。必要なコンピテンシー/リソースが不足している。	漠然とした初期のビジネスアイデアがあるが、資金ニーズや資金調達の選択肢が明確にはなっていない。

“KTH INNOVATION READINESS LEVEL™.” KTH INNOVATION READINESS LEVEL™, 16 MAY 2024, [KTHINNOVATIONREADINESSLEVEL.COM/](https://kthinnovationreadinesslevel.com/)を参考に筆者で日本語訳

採択者の声

アイディアの洗練とそれを実現するプロセスを学ぶことがこのプログラムの良さだと思います。大学院生だからこそ、課題発見能力や解決策の妥当性を正しく評価できると思います。研究だけにとどめて学生生活を終わらせるのはもったいないです！是非同志を募って参加して欲しいです！

ビジネス案に自信がなく応募を悩んでいる方もいると思います。既存のサービスを調べたらありそうとか、そもそも顧客が少ないとか...でも、そういう人にこそ是非参加して欲しいと思います！僕たちの盆栽3D化サービスも最初は水やりでした。プロダクトを作るプロセスの中でアイディアも洗練されますし、何より手を動かさないとわからないことばかりです。

工学府D1（採択当時） 小山賢晋さん



QRECからのQuestions

Q1

このプログラムに参加したいと
思いますか? 参加に際してプロ
グラムへの要望はありますか?

Q2

QRECアクセラプログラムの
参加には、何がハードル
になっていると思います
か?

Q3

知人にこのプログラムが役立ち
そうな人やラボがございますで
しょうか?

Q & A

ご質問がありましたら、お願いします！

THANK YOU!



渡邊由佳

アクセラレーション・マネージャー

👤 watanabe@qrec.kyushu-u.ac.jp

🌐 <https://qrec.kyushu-u.ac.jp/>

📍 伊都キャンパスセンター5号館7階
QREC事務室



QRECアクセラプログラム

